

## ■江戸東京きらりプロジェクト

本プロジェクトは、江戸東京の伝統ある技や老舗の産品といった「東京の宝物」に磨きをかけ、その価値と魅力を世界に発信するプロジェクトです。

本プロジェクトは、“Old meets New”をコンセプトに、伝統的な匠の技の中から新たな取組に果敢に挑戦する「モデル事業者」を「衣・食・住」の各分野から選りすぐり、新しい視点から江戸東京の伝統ある技、産品を磨き上げることでその価値を高める取組と、SNSや国内外でのプロモーション等を通じてその魅力を発信する取組を行っています。これらの取組を通じて、東京の伝統ある産業の魅力向上と持続的発展、技の継承を目指していきます。

【江戸東京きらりプロジェクト オフィシャルサイト】

<https://edotokyokirari.jp/>



©Edo Tokyo Kirari Project

## ■ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館

英国の国立博物館であるヴィクトリア・アンド・アルバート博物館は、世界をリードする芸術とデザインの博物館であり、5,000年以上にわたる人類の創造性を示す280万点を超える作品、文献、関連資料が収蔵されています。

館内では、建築、彫刻、絵画、写真、版画、家具、ファッション、テキスタイル、金工、ジュエリー、陶芸、ガラス、演劇、パフォーマンスの分野において、世界最高峰の作品資料を展示しています。

コレクションの内容は多様で、世界的に知られるアジア美術とデザインのコレクションには日本の美術とデザインも含まれています。



©Victoria and Albert Museum, London

## ■「江戸東京きらりプロジェクト」モデル事業者商品及びコラボレーション作品展示について

「江戸東京きらりプロジェクト」モデル事業者の商品の展示及び、館鼻委員とのコラボレーション作品を展示・紹介します。

### 【コラボレーション作品】



©NORITAKA TATEHANA k,k,Photo by GION



©NORITAKA TATEHANA k,k,Photo by GION



©NORITAKA TATEHANA k,k,Photo by GION

《館鼻則孝 × 伊勢半本店 小町紅》

《館鼻則孝 × 龍工房 東京くみひも》

《館鼻則孝 × 高橋工房 江戸木版画》

## ■ワークショップについて

### 《デモンストレーション》現代美術家 館鼻則孝によるヒールレスシューズの紅染め実演

伊勢半本店の生紅(なまべに)と呼ばれる紅花から生成された染料を用いた、紅染めのデモンストレーションを行います。革に染め付けられた赤い染料が定着すると同時に玉虫色に発色する瞬間をご覧ください。

### 《ワークショップ》小町紅 伊勢半本店による玉虫色に発色する紅の筆書きお守り制作

伊勢半本店の玉虫色に発色する紅の筆書きお守り制作をします。黒い紙に紅でご自身のお名前などを筆書きしていただき、紙に包むことでお守りを制作します。赤い紅が玉虫色に変化する瞬間をご覧ください。

### 《ワークショップ》東京くみひも 龍工房による丸台を用いた組紐制作と指で組む組紐制作

組紐の原点とも言える指で組む組紐体験をします。両手の指に掛けた紐を正確に交差させることで、組紐が組み上がると同時に文様が現れます。江戸東京の組紐の特徴でもある丸台を用いた組紐のデモンストレーションもご覧ください。

### 《ワークショップ》江戸木版画 高橋工房による木版画制作

葛飾北斎の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」や、縁起が良いとされ魔除けの意味をもつ「金魚」を摺る木版画体験をします。バレンと呼ばれる摺具を用いて制作する本格的な木版画です。完成した木版画は、団扇に貼り付けたり額装して展示することも可能です。

※各ワークショップでの制作物は、お持ち帰りいただけます。

※イベントの実施については、プレス日時点の内容であり、変更がある場合があります。

## ■「Masterclass: Tokyo Crafts」の参加者



©NORITAKA TATEHANA k,k,Photo by GION

館鼻 則孝（たてはな のりたか）

江戸東京きらりプロジェクト推進委員会 委員

1985年、東京都生まれ。東京藝術大学美術学部工芸科染織専攻卒。卒業制作として発表したヒールレスシューズは、花魁の高下駄から着想を得た作品として、レディー・ガガが愛用していることでも知られている。現在は現代美術家として、国内外の展覧会へ参加する他、伝統工芸士との創作活動にも精力的に取り組んでいる。作品は、ニューヨークのメトロポリタン美術館やロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバート博物館などに永久収蔵されている。

## 「江戸東京きらりプロジェクトモデル事業者」(ワークショップ参加事業者抜粋)



©Edo Tokyo Kirari Project, Photo by GION

伊勢半本店《小町紅》（いせはんほんてん・こまちべに）

1825年に紅を製造・販売する紅屋として創業。門外不出とされた秘伝の製法から作られる玉虫色の紅は、世界で唯一、江戸時代の製法そのままに作り続けられている。また、「紅ミュージアム(港区南青山)」を運営し、最後の紅屋の使命として、紅の歴史・習俗・日本の化粧史の紹介等を通じて、紅の文化を後世に繋ぐ活動を行っている。

江戸東京きらりプロジェクト参加により、ブランディングに取り組み、購入ターゲットや需要開拓の可能性を確認するなど、事業拡大を図っている。



©Edo Tokyo Kirari Project, Photo by GION

龍工房《東京くみひも》（りゅうこうぼう・とうきょうくみひも）

1963年に創業以来、組紐にあった糸づくり、染色・デザイン・組みまでを一貫して行う都内で唯一の工房。伝統的な組紐だけでなく、先代から受け継がれてきた技術とノウハウから組紐を進化させ、2019年に日本で開催されたラグビーワールドカップでは、メダルリボン・参加記念敷布を、耐久性と伸縮性を重視した純国産シルクの組布で製作した。

江戸東京きらりプロジェクト参加により、インテリア等新規分野への事業開拓など、新領域への展開を図っている。



©Edo Tokyo Kirari Project

高橋工房《江戸木版画》（たかはしこうぼう・えどもくはんが）

安政年間(1854年～1860年)に創立し、現在に至るまで伝統の木版画の制作を続けている。江戸木版画は、「絵師」「彫師」そして色ごとに色を摺り重ねる「摺師」の3者の分業で作品を作り上げていく。高橋工房は、170年前の初代から摺師を継承し、現在は3者をプロデュースする「版元」も兼ねている。

江戸東京きらりプロジェクトの参加により、月岡芳年「月百姿」の復刻や外務省主催のウェビナーへの参加等海外展開も図っている。